

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300089
法人名	医療法人 誠仁会
事業所名	グループホームめおといわ「はなみずき」 (ユニット名 II)
所在地	福岡市城南区松山2丁目8番3号
自己評価作成日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月に開設、同敷地内に診療所・訪問看護ステーション・訪問介護事業所、同建物の1階にデイサービス・小規模多機能施設があり、その2階に事業所は設置している。「一人一人が入居者様の身になって介護サービスを提供する」理念の下、入居者様の立場に立って考え提供する介護を目指している。「閉鎖的にならない環境作り」「日々笑いが絶えない事業所」をモットーに、日々介護に努めている。開設時より4名の入居者様の看取りもさせていただき、地域や入居者・ご家族のニーズに対応できる事業所作りを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年12月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目のつくところに掲示し全職員で共有し出勤時各自理念を復唱してから業務に入っており、理念に基づいたケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩することで地域の方とあいさつを交わしたりと顔なじみの関係を築いている。敬老会の際には、地域にある大学の同好会に協力して頂き和太鼓の演奏を披露してもらった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でグループホームの運営状況や入居者の暮らしの情報を公開し認知症の理解が得られるように心がけている。認知症についての相談には積極的に応じ理解を深める機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。家族や近隣のグループホーム、町内会長や民生委員、包括支援センターや行政関係者等参加して頂き入居者の状況や行事報告を行い、出席者からの意見はサービスに活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政職員の参加をお願いし、施設の現状を把握してもらうよう努めている。また不明な点等あればその都度電話で相談や確認を行うようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で理解を深め身体拘束や言葉による抑制をしないケアに取り組んでいる。20時以降は職員が一人となり防犯のため施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い職員の意識付けを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会などで全スタッフが理解できるように取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族に契約時重要事項説明書で具体的に説明をしている。その時に不安や疑問に対する相談を受けている。入退去の不安を少しでも軽減する為相談やアドバイスを密に行い十分な理解と納得が得られるよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より家族に要望や意見など話しやすい雰囲気作りを心掛けている。家族の意向をケアに反映する体制を作っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにおいて運営上の問題点や改善してほしい点を挙げてもらい、すぐに改善できるところは取り組み、他は状況を確認しながら改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接を行い相談や向上心が持てる目標が話せる機会を設けている。個々の職員に応じた労働環境作りがなされており資格取得に対するバックアップ体制もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては性別年齢による排除はなく人柄や性格グループホームに向いているか等面談を通して話を聴き考慮することとしている。社会参加や自己実現の権利が十分保障されるよう体制作りがある。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	普段から入居者の人権を尊重することを指導している。言葉遣いや態度接し方等の勉強会も行って人権を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会に加え希望に応じて外部研修に参加し研修の成果の発表の場を設け、運営推進会議などで報告をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は他の事業所の運営推進会議や地域ネットワーク会議などに出席したり情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の基本情報を把握しご本人の意向家族の要望などを受け入れ、安心して暮らせるよう関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面接時に日常生活の変化や様子、身体の状況や服薬のことなど経過を報告、今後どうするかを話し合っ決定できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でアセスメントを行いサービス内容を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に出来ることは少なくなってきたがその中でも役割を見つけ手伝って頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事やレクリエーション、入浴の様子などの見学や外出の行事には参加を呼びかけ一緒に過ごしていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人からの電話はすぐに対応し来訪してもらえるように支援を行っている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの状況を考え隣同士で会話をして頂いたり距離を置いたり他の事業所に行き交流を深められるように支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設を利用された入居者家族とは、現在の状況を教えていただき会話をすることで安心につながっている部分がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が直接希望をつたえることができない場合は、面会時に家族に日々の健康状態や暮らしの様子をお伝えし今後活かせる支援を行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報だけでなく友人などからも昔の思い出を情報収集して今後のケアにつなげて行けるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察したうえで本人の出来ることできないことを把握し毎日安心して楽しく暮らせるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスで職員の気付きや意見をケアプランに反映させ入居者家族の思いを介護計画作成に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフからの声掛けによりどんな反応を入居者がされたのかを言葉や表情等詳しく記録に残すようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族来訪により外出されたり、髪のカットの仕方などの要望に応えたりと細部にわたり対応できるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事として夏祭りに参加、大学祭と地域のパレードの応援、敬老会では大学生のボランティアによる和太鼓演奏など楽しむことができるように支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医のあるなしをお聞きしたうえで松山診療所の説明を行っている。家族の希望の訪問歯科と情報の共有や連携を図りながら支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約を結んでおり、毎日朝夕の2回訪問によりその日の入居者の体調の変化など報告、いつでも連絡ができる状態である。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護添書、生活状況を記入し情報提供できるようにしている。入院中の医療機関に行きカンファレンスに参加し情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について契約時に説明をし家族が来訪された時には看取りについて話し合えるようにしている。診療所と家族と共に出来ることを説明しながら最終段階が本人にとっていちばん良いと思われる選択を考えながら支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を定期的実施し勉強会で急変時の対応や応急手当の方法を実践的に学んでいる緊急連絡網を作成し体制作りは出来ている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災についての外部研修や年2回以上の総合防災訓練また水消火訓練を実施している。防災講習会を開催し地域の方も参加しての水消火訓練を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい言葉で接したり共感を示し、寄り添うケアを行えるよう勉強会を開催したり、言葉かけや対応で良かった点や悪かった点など申し送りして伝えるようにしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	隣に腰かけゆったりとした時間の中で入居者の思いをくみ取れるよう接している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、その日をどう過ごしたいか尋ねたり、気候の良い日などには施設外の情報を伝え外出へ興味を示していただけるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面整髪、着る服などなるべく入居者に選んでもらえるように声かけをしている。日々の暮らしの中で身だしなみやおしゃれに興味を持っていただけるよう家族が新しい服を持参されたり衣替えを行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と食事作りは行っていないがおやつ作りを一緒にしたり、食後の下膳やテーブル拭き、トレ拭き等出来ることは協力してもらえよう声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	セントラルキッチンより毎日3食食料が搬送される。入居者の状態に応じ、粗刻みやごく刻み、ミキサー食やゼリー食の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの実施に取り組んでいる。見守り、介助により清潔を保つことで病気の予防に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗などが無いよう入居者の排尿パターンを把握して定期的に及び随時誘導介助を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分の補給に努め体調が悪く嚥下困難な場合などはトロミ材を使用したりお茶ゼリーを提供して水分補給が出来るようにしている。腸に良い足踏み体操や運動をレクリエーションに取り入れ予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが入居者の意思を尊重して入りたくない日は、別の日に行ったりと臨機応変に行っている。入浴のあまり好きではない入居者には家族や仲の良い入居者に手伝って頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者それぞれの時間に合わせ、夜間良眠できるよう出来るだけ日中は散歩したり、日光浴をして過ごしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援では、名前や日付を確認して服用してもらい薬の用法や副作用などは、薬の一覧で確認している。薬の変更等あれば申し送りノートに記入し情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が食べたい物や何をしたら楽しいかなどを訪ねレクリエーションに取り入れる工夫を行っている。入居者の好きな食べ物をおやつとして提供している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出掛けられよう支援に努めている。気候の良い日はドライブに出かけたり、家族の協力を得て福岡タワーやレストランで食事、楽しんでいただけるよう支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かりをしておらず、家族の協力のもと必要なものに関しては持参していただく。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している入居者は家族からの電話などすぐに対応できるようにしている。家族や友人に連絡をしたいといわれる入居者には速やかに対応を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに季節の花や鉢を置いたり、季節ごとにリビングの環境を変えたりと工夫している。朝日や西日の強い部屋にはカーテンで採光を調整したりエアコンで温度管理を行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファとテーブルの空間を作りどちらでも好きな場所へ移動し過ごしていただけるようにしている。静かな場所が良い方は玄関近くにベンチ椅子を2カ所設けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具やテレビ、枕などを持ってきていただきご自宅で過ごしていた環境と同じような空間を作り落ち着いて過ごせる工夫をしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前にはネームプレートと好きな花の絵を掛けている。トイレマークも大きく表示し、杖歩行の方でも安全に歩行ができるよう手すりを設置している。		